

HEART NET Vol.18

岩見沢市立総合病院 広報誌

2023年3月発行

ホームページ

<http://www.iwamizawa-hospital.jp>



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください



はあとやっ



[特集] ストーマ外来

[特集] 薬剤部業務の紹介

[レポート] DMAT

[職場紹介] 放射線科

[クッキング] 健康レシピ／編集後記

写真:「看護の日」イベントの様子

特集

ストーマ外来

看護部看護主任 皮膚・排泄ケア認定看護師 小原 菜穂

ストーマ外来とは、オストメイト(人工肛門・人工膀胱保有者)が、ストーマ造設前とできるだけ同じ生活ができるよう、個別的に、専門的なケアを行う外来です。

平成23年にストーマ外来を開設してから、皮膚・排泄ケア認定看護師が担当していましたが、今年度より、指定の研修を受けた看護師4名が、担当者に加わりました。

退院後も継続した看護を行うためには、病棟と外来の連携が欠かせません。オストメイトにとって、入院中は、セルフケアの習得が目先の目標となります。退院指導を受けても、実際に日常生活を過ごす中で、ストーマに関する不安や疑問が生じたり、ストーマのサイズや腹壁の変化が生じ、ケアの変更が必要になる場合があります。私は、ストーマ外来開設時から、外科病棟とストーマ外来を兼務しており、入院中から退院後もオストメイトの方と関わってきました。しかし、病棟を離れてから、退院後、ストーマ管理に困り事を抱えるオストメイトとの関わりの中で、退院後を見据えたケアが不足していると感じるようになりました。病棟看護師が、退院後のオストメイトを知ることで、もっと良いケアができると考え、これまで、情報共有や、ストーマ外来を見学するなどの取り組みも行いましたが、退院後を見据えたケアの実践には結びつきませんでした。しかし、現在病棟では、研修を修了した看護師が中心となって、ス

トーマの位置決めや装具選択を行ないます。その役割を担うことで、入院中のケアが退院後の生活に活かされたか知りたいという声が聞かれるようになり、入院中から退院後もサポートできる体制を作ることができました。新しい担当者は、ストーマ外来で、実際にオストメイトの声を聞き、退院後のストーマのある生活を知ること、入院中には見えなかった問題点を肌で感じています。

オストメイトのQOL(生活の質)の維持・向上のために、ストーマ外来は大切な窓口だと考えています。実際に、オストメイトから「見てもらって安心した」という声をいただきます。これからは、入院中に関わった看護師に見てもらおうという、安心感にも繋がるのではないのでしょうか。

これからも、新しい担当者と共に、オストメイトが抱える不安や疑問を解消・解決し、安心して生活が送れるようサポートしていきたいと思ひます。



実際のケアの様子



Team

Stoma

新しい担当者から一言

患者様に行うセルフケア指導が、退院後も継続して活かされているか、困っていることはなかったか等、ストーマ外来では患者様の実際の声を聞くことができます。病棟から外来への継続看護として情報を活かしながら、支援に繋がっていきたいと思います。患者様一人一人の生活や状態に合わせたケアサポートができるよう、日々学習し、専門性を持った関わりを行って行きたいと思います。

木内 尚子

今回、ストーマ外来の担当者に加わり、病棟だけではなく継続して外来で患者様と関わることができ、自宅での様子や装具交換について手技を確認することで継続看護できることがとても嬉しいです。これまで学んできたことや経験を活かし、知識向上しながらストーマ外来で活動していきたいです。これからよろしくお願い致します。

吉田 麻衣

この度、ストーマ外来担当者の一員となりました。患者様がストーマ造設し、退院後に日常生活の中でトラブルや悩み等を抱えることもあると思います。そのような時、少しでも患者様の意向に沿って、解決していけるようにサポートできたらと思います。よろしくお願い致します。

輪島 宏至

ストーマ外来を経験して、病棟で実施している指導内容では、患者様の退院後の日常生活を送るうえで不足していることがあると実感しました。そのため、病棟スタッフと協力し入院中から社会復帰を見据えた指導を行い、退院後も継続的に看護が出来るよう頑張っていきたいと思います。

今井 奈月



特集

薬剤部のお仕事とは

病院薬剤師の役割 薬剤部 薬剤長 小嶋 啓修

薬剤師は薬による治療をサポートし、患者さまに安心安全を提供しています

病気の治療や予防、健康の維持の為に、薬は私達の生活に欠かせなくなっています。病気などで薬を服用した経験があると思いますが、薬剤について専門的な立場から携っているのが私たち薬剤師です。治療に必要な不可欠な「薬」を、医師・看護師・他の医療スタッフ等と連携して、安全に、かつ適正に使用されるよう業務に従事し、患者さまが安心して医療が受けられるよう、また高度な医療を提供できるようにあらゆる場面で薬によるサポートを行っています。

私たちはさまざまな業務を行っています



内服薬・外用薬の調剤業務

医師の処方せんに基づいて、外来・入院患者さまにお渡しする薬を調剤します。薬の用量や相互作用、重複投与などをチェックして疑問があれば処方医へ問い合わせ安全に薬剤を使用できるように努めています。患者さまへは当院から処方された薬剤名・用法用量・効能効果・使用上注意の書かれた「おくすりの説明書」を発行して、患者さまの薬剤使用の理解を推進し、また他院を受診した場合の薬歴管理のための「お薬手帳」もお渡ししています。



注射薬調剤・調整業務

医師の処方せんに基づいて、患者さまごとに注射剤を取り揃え病棟に払出をしています。また、院内の各部署において医薬品の品質管理、補充も行っています。注射薬は血管内に直接投与され効果が強く出やすく、使い方に注意が必要なため投与量、投与速度、投与期間、配合禁忌（混ぜてはいけない薬）などの内容のチェックを行い疑わしい点があれば医師へ問い合わせをして安全投与に努めています。院内で実施されるがん化学療法は、処方監査と調製を行い個々の患者さまに応じた投与量、投与スケジュール、併用薬等のチェックを行うことで、安全性を確保しています。調製は、調製監査システムを導入し、バーコードによる薬品照合や、重量監査による確認を行い、安全で正確な業務を行っています。

服薬説明



患者さまに対し治療に関する薬の飲み方や、効能効果、副作用などを患者さまのベッドサイドや外来指導室で説明しています。得られた情報は医師や他の医療スタッフと情報共有し、処方提案や副作用の確認を通して最適な薬物療法を提供しています。

入院時支援・地域医療連携



患者さまの入院に際して必要な薬の使用や中止すべき薬の有無の確認を行っています。患者さまから得られた副作用歴やアレルギー歴の情報はスタッフ同士で共有し、入院後の手術中止や延期の防止、安全の確保など重要な役割をしています。一部の患者さまには調剤薬局と治療に関する情報を共有し安心できる薬物療法を提供しています。

医薬品情報・医薬品安全管理



医薬品の情報を収集し、医師、医療スタッフから薬剤の使用方法などの問い合わせに対応しています。薬は使用期限があり、温度や光・湿度などの保管方法は厳しく管理をしています。

また災害拠点病院に指定されており、緊急時にも対応できるように在庫管理を行っています。

チーム医療



チーム医療では、医師や看護師など様々な職種のメディカルスタッフがそれぞれの職能を活かし、連携することにより、患者さまによりよい医療を提供できるよう、日々活動しています。薬剤師はチーム医療の一員として、がん・感染・緩和・認知症・栄養・褥瘡等の様々な場面で活躍しています。

患者さまへ

薬のことは、お気軽にご相談ください

患者さまの適正で安全かつ有効な薬物治療のために医薬品の管理、供給、薬の情報提供、副作用防止に努めております。お薬のことでわからないことはお気軽にご相談ください。薬局窓口の受付時間は、平日と休日の当番日は午前8時30分から外来診察終了時刻までですが、外来診療を行っていない日も日直・当直の薬剤師が対応しております。



私たちからのお願い

お薬手帳について

お薬手帳は、使用している薬の名前・飲み方、アレルギー歴、副作用歴などが記入できる手帳です。医療機関へ受診される時や入院される時にはお薬手帳をご持参下さい。外出先での急な体調の変化や万一の災害発生時などにも役立ちますので、日頃から携帯することをおすすめします。

私たち薬剤師はこれからも患者さま皆さんとともに地域に根ざした、病院薬剤部を目指して一層努力していきたいと考えています。

Report

「DMAT」とは、災害急性期に被災地への出動を含めて活動できる機動性を持ち、
訓練を受けた隊員で構成された医療チームです。

一般に、**Disaster Medical Assistance Team**
の頭文字をとって略称で呼ばれています。



DMAT

災害派遣医療チームについて

事務部医事課医事情報係長 谷口 明秀

当院は、北海道から平成25年
「北海道DMAT指定医療機関」として指定を受けています。

令和4年4月1日現在、当院には日本DMAT隊員として登録しているスタッフが6名(医師3名、看護師2名、業務調整員1名)、北海道DMATとして登録しているスタッフが1名(業務調整員)在籍しています。

技能維持研修や実際の災害を想定した実働訓練を年に数回実施しています。最近では胆振東部地震の際に発生したブラックアウトのため、札幌市内の電源が供給されなくなった医療機関の入院患者を、大学病院へ搬送する「域内搬送」の任務を行いました。

災害はいつ発生するか分かりません。

私たちは、定期的な会議の開催や災害訓練への参加など、災害時の出動や活動に対応できるように、各隊員が災害に備えています。



当院の放射線科は診療放射線技師17名と受付4名で構成されています。放射線科では医師の依頼のもと、放射線を使ったさまざまな装置を用いて検査や治療を行っています。一般X線撮影、CT検査、MRI検査、ラジオアイソトープ検査(RI検査)、血管造影検査、乳房撮影(マンモグラフィー)、骨密度検査、放射線治療、などを担当し、治療や画像情報を提供しています。短時間の間で患者さんとの信頼関係を築きながら検査を行い、診断や治療に役立ち更に患者さんに説明しやすい画像の作成を心掛けています。

一般X線検査

主に肺やお腹、骨などを撮影します。息を大きく吸って止めてもらうのはなるべく肺を広げるため。息を止めてもらうのは画像がぶれないようにするため重要です。

CT検査(2台)

大きな円筒形の機械に寝台ごと入り、目的とする部分にX線をあてて撮影しコンピューターで処理することにより体の断面や、内臓、血管、骨など3D画像が得られます。一般撮影だけではわからない病気を見つけることができます。

MRI検査(1.5T装置1台)

人体の70%を占める水に含まれる水素原子が、強い磁場に反応する性質を利用した検査。X線をつかわない検査で、骨や空気の影響を受けにくく、脳や血管など柔らかい組織の検査に適しています。

ラジオアイソトープ検査(RI検査)

調べたい臓器や病気に集まる性質を持つ微量の放射性医薬品を静脈注射などにより投与し、体内の放射線医薬品から出てくる放射線を画像として記録する検査です。臓器の形だけではなく臓器の機能や血液の流れる量などがわかるのが特徴です。



乳房撮影(マンモグラフィー)

乳房を上下・斜めから圧迫し腫瘍の有無や大きさ、形、石灰化の有無を調べます。立体的な乳房をなるべく薄く平たくすることがポイントで、技師が乳房にふれることが不可欠となりますが、当院では女性技師が対応しています。

血管造影検査(2台)

造影剤を血管に流しこみ、血管の影をつくり、血管の形や血流の状態を連続して撮影する検査です。検査には医師、看護師、臨床工学技士が入って処置を行います。

放射線治療

リニアックという機械から発生する高エネルギーX線や電子線を病巣にあてがんなどを治療します。



COOKING

クッキング

栄養科
川尻 有貴子

くせがない冬野菜、
白菜を使ったメニュー
クリームとよく合い
たくさんの栄養を一度にとれます。

材料 4人分

○ 豚肉(薄切り)	300g
○ 玉ねぎ	中1/2個
○ にんじん	中1/2本
○ じゃがいも	小2個
○ 白菜	300g
○ ブロccoli	1/2株
○ バター	大さじ1
○ 小麦粉	大さじ2
○ 固形スープの素	2個
○ 水	2カップ
○ 牛乳	2カップ
○ 塩	適量
○ こしょう	適量

One Point!

- ① 豚肉に含まれるビタミンB1は、玉ねぎの栄養素(アリシン)と結合しやすく、ご飯やパンなどの糖質がエネルギーに変わる効果を高めることができます。
- ② 人参のβカロテンは、抗酸化作用や、肌の老化、がんの予防効果が期待できます。また、カリウムも多く含み、高血圧の予防や改善にもなります。
- ③ 牛乳に含まれる乳糖は、腸で善玉乳酸菌を増やして、腸の働きを活発にし、便秘を防ぎます。また、カルシウムや鉄の吸収を促進する効果もあります。

健康レシピ 豚薄切り肉と白菜のクリームシチュー



作り方

- ① 豚肉は2～3cmに切り、塩、こしょう各少々をふって全体になじませる。
- ② 厚手の鍋にバターを熱し、豚肉、一口大に切った玉ねぎ、にんじん、じゃがいもを炒める。
- ③ 弱めの中火にして、小麦粉を入れ軽く混ぜ、水、固形スープを入れ、強火で煮る。煮立ったらアクを取り、弱めの中火で柔らかくなるまで煮る。
- ④ ざく切りにした白菜、牛乳を加えてさらに約5分煮込み、小房に分けて下茹でしたブロッコリーを加えてひと煮たちさせ、塩、こしょうで味をととのえる。

はあとねっとVol.18をお届けします。



2023年を迎え、真冬の寒さと降り続く雪に追われている毎日です。屋外での活動も躊躇してしまいがちな季節ではありますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。当院では感染予防対策を行ない新年度に向けての活動計画を検討しているところです。また、電子カルテのシステム更新に向けデモンストレーションや意見の集約なども始まり、各部門から活発な意見交換も行なわれています。今後も「はあとねっと」を通じて、地域の皆さまに新しい取り組みや診療に関する情報をお届けしていきたいと思っております。

サービス向上委員会